

令和元年度 第2回 坂井輪図書館協議会会議録（概要版）

I 開催概要

- 1 日 時 令和元年12月13日（金）午後2時～午後3時10分
- 2 会 場 坂井輪地区公民館4階 講座室1
- 3 出席者
＜委員＞佐藤会長、中山副会長、越智委員、田村委員、平栗委員、星野委員、
＜事務局＞伊藤館長、小林主査、五十嵐主査、吉澤図書館司書、中村主査、
高島囑託
＜傍聴者＞なし

II 次第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 平成30年度 決算報告
 - (2) 令和元年度 事業中間報告
 - (3) 平成30年度 図書館評価について
- 4 その他
 - (1) 令和元年度 新潟市立中央図書館合同情報交換会報告
- 5 閉会

III 配付資料一覧

- 令和元年度 第2回 新潟市立坂井輪図書館協議会次第
- 資料1-1 平成30年度 決算
 - 資料1-2 平成30年度 決算（資料購入費）
 - 資料2-1 令和元年度 事業中間報告（坂井輪図書館）
 - 資料2-2 令和元年度 事業中間報告（内野図書館）
 - 資料2-3 令和元年度 事業中間報告（黒埼図書館）
 - 資料3-1 平成30年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート
 - 資料3-2 平成30年度 新潟市立図書館指標別評価シート

IV 主な意見・質問等

- (3) 平成30年度 図書館評価について
 - (星野委員) 子供の読書活動を推進する学社民融合型図書館の館の重点評価項目の自己評価の中に、「働き方改革により参加者数は減ったが、質の高い読み聞かせの実践ができた。」とあるが、具体的にどういうことか。
 - (事務局) 毎週赤ちゃんタイムに合わせておはなしのじかんを設定していたが、その設定時間に職員の昼休みも含まれていた。昼休み時間は職員が手薄になっているため、対応を急いでしまうこともあった。職員の昼休みの時間をお

はなしのじかんから外した結果、数は減ったが質の高い対応をすることができた。

(中山委員) 施策・事業の市民参画と共同を推進する「パートナーシップ型図書館」の利用者の意見を把握する機会の設定(回)の数値が平成29年度の実績が5回で平成30年度の目標が3回、実績が5回で、昨年度と同じなのに評価が3なのはなぜか。

(事務局) 目標が違っていたので修正する。

(中山委員) その利用者の意見を把握する機会とは何か。また、もう少し図書館利用者の意見を聞く場を設けてはどうか。

(事務局) 5回の内訳は、坂井輪図書館協議会2回と黒埼図書館の利用者連絡会3回のこと。今年度はブックスタートボランティアとの交流会を実施した。他の区で過去に図書館利用者向けにも実施したことがあるが、ほとんど人が集まらなかったり、一部の利用者の偏った意見が多かった。団体利用の公民館と違い、個人利用の図書館では、全体を見て意見を交換しあうことは性質上難しいと考える。

(越智委員) 図書館運営の自己評価の中で、「展示を工夫した結果、3館とも貸し出し点数を伸ばすことができた」は貸し出しが伸びる理由はほかにも要因があるはずなので、展示ひとつだけを理由にするのは違うのではないか。

(事務局) 展示というのは、テーマに沿った本を集めて本の表紙を見せて並べることで、貸し出しにつながっている。実際に坂井輪図書館では統計もとってみた。貸し出し冊数の約3パーセントが展示本を借りた冊数となっている。面出しやテーマ展示が貸し出しに結びついていると分析した。